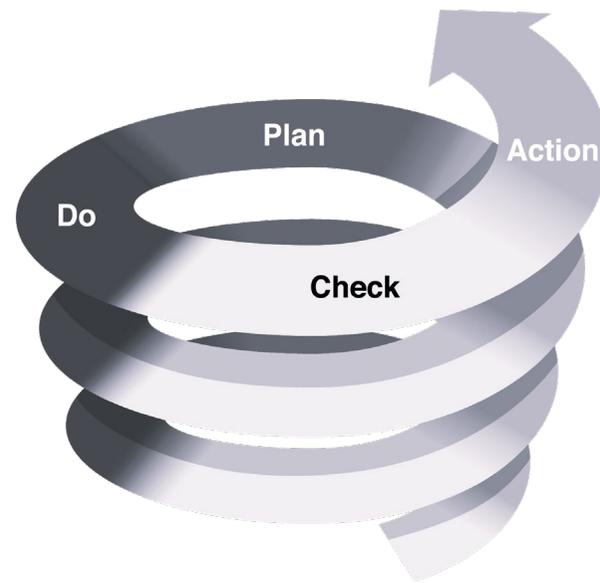


令和6年度前期

授業に関する自己点検評価



函館大谷短期大学  
FD委員会・SD委員会

〈ビジネス情報学科〉

科目名 担当教員名	到達目標	授業振り返りアンケート 結果分析	具体的な改善策
<p>教育心理学 【こども学科科目】</p> <p>藤村 敦</p>	<p>子どもの発達や学びについての代表的な理論について理解を深めるとともに、実際の保育場面において、どのように理論を生かすことができるのかについて自分なりの意見をもつことができる。</p>	<p>満足度は4.84と昨年度より改善し、講義中の演習やテスト、フィードバックは適切であったと考える。予習・復習時間については課題としてあげられるが、改善が見られたことから、一覧表配布の支援は適切であったと考える。</p>	<p>予習・復習時間が少ないという課題については、予習箇所をまとめた一覧表の配布などの手立てにより、改善は見られたものの、昨年と同様の傾向である。今後も、学習方法に関する分かりやすい指導に努めていく必要がある。</p>
<p>情報基礎演習Ⅰ</p> <p>伊藤 聡</p>	<p>1. 実際の統計データを分析・加工し、グラフ化（視覚化）するなど、Excelの実践的な活用法を身につける。 2. 分析したデータを、文章（Word）、発表資料（PowerPoint）などに加工する技術を身につける。</p>	<p>全般的に、「予習・復習の週平均時間」の項目以外は満足度が高く、高いモチベーションで授業に臨んでいたと考える。 「予習・復習の週平均時間」の確保については、検討課題として、次期の授業につなげていく。</p>	<p>予習・復習について、学生が取り組んでいけるような教材づくりや仕組みを構築していくのが今後の課題となる。 E-learning Systemを利用した、復習課題の配布及び回収を実施するなどの施策を行っていく。</p>
<p>秘書学概論</p> <p>渋田 昌士</p>	<p>秘書に必要な考えかた、秘書としての行動のしかたを理解することをこの授業の目標としている。</p>	<p>予習復習を必要としているものの、予習できる内容が少なかったこと、またそのヒントとなる資料提示が少し足りなかったと考える。 また、授業も一方向の授業になっていたが多かったため、双方向の授業展開が必要だと感じた。</p>	<p>予習復習に必要な課題を毎回提示することが必要だと思う。 また、双方向の授業展開を目指し、学生が参加できる項目を取り入れることが必要である。</p>
<p>文章・言語表現</p> <p>伊藤 好一</p>	<p>「聞く」「読む」「話す」「聞く」という能力の鍛錬を通じて、「自己分析」「自己表現」の向上を目指す。</p>	<p>学科全体の結果と比較し、「教員の話し方や説明の仕方」「意見や質問の出しやすさへの配慮」等で高い結果となったことが確認できた。最も評価の高い「意見や…」は、授業時に配布しているリアクションペーパーが功を奏したものと考えられる。</p>	<p>学科全体の結果と比較し、「予習・復習の週平均時間」等で低い結果となったことが確認できた。より具体的な予習・復習の指示を出し、次回講義時に振り返りを行う時間を設ける、予習してきてよかったと思えるような授業展開を心掛ける等の方法を実施したいと考える。</p>

科目名 担当教員名	到達目標	授業振り返りアンケート 結果分析	具体的な改善策
コミュニケーション学概論  今在 景子	コミュニケーションに関する知識を習得し、自分のコミュニケーションを客観的に評価できるようになる。	授業評価アンケート結果から「授業の目的の明確さ」が高く評価されており、本授業の目的を学生と十分共有できていたと考えている。また、学生自身が「新しい知識や技能の習得」ができていると認識していることが示されていた。	アンケート結果からは知識と技能の習得ができているということが示されていたが、到達目標の達成はあまり高く評価されていないことから、学びの実践的活用をより意識する必要があると考えている。
情報基礎演習 I  齊藤 大晶	1. 実際の統計データを分析・加工し、グラフ化（視覚化）するなど、Excelの実践的な活用法を身につける。 2. 分析したデータを、文書（Word）、発表資料（PowerPoint）などに加工する技術を身につける。	授業評価アンケートでは、総合的な満足度が4.77と高評価を得た。また、「授業内容への興味関心」（4.50）や「授業の目的の明確さ」（4.86）も評価されており、授業計画や進捗が学生に適切であったと考えられる。一方、「予習・復習の平均時間」（1.62）に対する評価が低く、学生が自主学習に十分な時間を割けていない可能性が示唆される。	予習や復習を促進するため、講義資料に課題以外の練習問題を追加し、学習時間を増やす工夫を行う。また、課題解説の時間を拡充し、学生の理解を深めるとともに、復習用のチュートリアル資料を提供することで、自己学習を支援する環境を整備することを検討する。
韓国語会話 A  金 美敬	前期では、文字が読めて書けて、簡単な会話や自己紹介ができるようにする。	予習や復習など、学習環境をもっと作ることが必要だと思う。またグループを組んで、積極的に参加させ、学習させる。外国語での会話の楽しさを実感させる。	予習や復習など、学習をするように、もっと学習環境を作る。特に、予習として教科書での課題を出し、次回講義までに行ってくるようにする。復習は、教科書の問題やプリントなどで学習させ、学生の理解度を確認する。また、グループを組んで、積極的に参加させ、学習させることも考える。演習のやり方を増やす。  こまめに復習をさせる。そのためには、課題を毎回少しずつやらせ、提出するようにする。それに予習もできるように工夫をする。

科目名 担当教員名	到達目標	授業振り返りアンケート 結果分析	具体的な改善策
キャリアデザイン A  吉田 麻子	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら考え、行動する社会人となるために身に付けておくべき習慣的な能力の習得。</li> <li>今後の人生においてどのように働いていくのかについて、職業適性や生きる方向性について考える力を身に着ける。</li> </ul>	生徒が授業時間以外で予習、復習をする時間の少なさが明らかとなった。（実践レポートは記入できているが、実感として自宅学習が少ないと認識されている）	<ul style="list-style-type: none"> <li>自宅で作成するキャリアデザインシート等の課題を出すことによって自宅学習の時間の増加と予習復習効果の増大を目指す</li> <li>具体的に社会を見回して己を知るための課題を実施する。</li> </ul>

### <こども学科>

科目名 担当教員名	到達目標	授業振り返りアンケート 結果分析	具体的な改善策
教育実習事前事後 指導  乳井 英雄	体験を通して、子どもへの理解を深め、幼稚園教育の役割を理解し、2年次の幼稚園教育実習への意欲を高める。	<p>アンケート結果では、設問領域「学生の受講態度」が平均値3.96、「授業内容について」が平均値4.84、「授業の進め方について」が平均値4.76、そして「総合評価」においては4.82という学生評価であった。設問領域の平均値はともかくとして、設問項目においては「学生自身の予習・復習の時間」が非常に少ないという学生本人の自己評価が多数存在している。</p> <p>また、前述以外の「授業内容・授業の進め方」における各設問項目の中では「学生の無理解度等を見ての授業展開」が4.71で最も低くなっている。</p>	<p>授業内容や進め方に関しては、前述した4.71が最も低い結果であるが、それ以外の項目も概ね4.7～4.8前後を維持できているので特に大きな問題とは考えていない。「指導計画論」などで指導案の書き方は習得していることを前提にして授業を展開しているが、理解度に差があることを踏まえて内容をより分かりやすく展開させる必要がある。</p> <p>また、DVD等による視覚学習もさらに増やしてみる。</p>

科目名 担当教員名	到達目標	授業振り返りアンケート 結果分析	具体的な改善策
福祉住環境コーディネーターⅠ  渡谷 能孝	<p>多角的な支援のできる保育者として、高齢者、障がい者、子どもが安心して生活することのできる住環境について理解することをねらいとする。</p> <p>福祉住環境コーディネーター3級取得を目指す。</p>	<p>授業内容については目的も明確に伝わっていることがわかりました（評価5.00）。</p> <p>新たな取り組みとして実際の住環境を見学することも、学生への興味関心に役立ったと考えている。</p> <p>少人数での授業展開は、学生の疑問点等に応じやすい環境であったことから、授業意欲の向上にもなったのではないかと思う。</p>	<p>なかなか馴染みのない住環境について、専門的な知識を身に付けるだけではなく、より興味関心をもち、資格試験を受験する形に繋げていきたい。</p> <p>予習への取り組みに向けた具体的な働きかけを心掛けたい。</p>
教育カウンセリング  阿部 千春	<p>教育カウンセリングに関する基礎的な知識を習得することをめざす。</p>	<p>授業内容の目的について明確に理解し（4.83）、不登校やいじめなど教育現場での問題や課題について考えを深める機会となったようである（「新しい知識や技能の修得」（4.72））。今後、目標項目と達成基準を明確にしていく必要がある。</p>	<p>体験を通して学ぶための具体的な手立てを今後も工夫していきたい。また、学生が作成したワークシートの内容や感想等を共有する機会を設けることで、学習内容の理解の深まりにも繋がっているようであり、今後も継続していきたい。</p>
健康科学論  池田 隼	<p>健康の維持増進を図るために、健康の概念や健康に影響を与える生活習慣について理解を深め、生活習慣を見直し、生涯にわたり健康に過ごすための力を身に付けるための知識を付け、さらにその知識を活用するための実践的な方法を理解することを目的とする。</p>	<p>授業評価において、「Ⅰ．受講態度」3.77点、「Ⅱ．授業内容について」4.68点、「Ⅲ．授業の進め方について」4.71点、「総合的な評価」4.74点であった。この中でも授業態度に含まれる「Ⅰ．3．予習・復習の週平均時間」が1.33点と低い数値を示していた。</p>	<p>次年度に向けた改善策については、授業内におけるミニテストの実施（回数を増やす）を取り入れていくことを検討している。</p>

科目名 担当教員名	到達目標	授業振り返りアンケート 結果分析	具体的な改善策
こどもの造形と遊び 太田 望	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材研究をこどもの発達や個性的な表現の違いの視点で理解することができる。</li> <li>教材研究を通して学修したことを元に模擬保育を計画，実践することができる。</li> </ul>	<p>受講態度は3.59，授業内容については4.15，授業の進め方については3.99，総合的な評価は4.22であった。</p> <p>授業内容についてと，授業の進め方についての結果が前年度と比べて低くなっている。</p>	<p>そのため，授業の到達したい目標を伝え，内容と進め方を精査し，改善していきたいと考えている。</p>
幼児音楽 土谷 育代	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者として必要とされる基礎的なピアノ演奏ができる。</li> <li>基礎的な音楽理論を説明でき，楽譜を読むことができる。</li> <li>子どもの歌を豊かな表現で，弾くことができる。</li> </ul>	<p>I.「授業態度」は，「出席状況」と「意欲」がI内の項目で高かったが，「予習・復習の時間」が低かった。意欲は高いが学習に結びついていない。II.「授業内容について」は全体的に高かった。授業の目的とその習得の有益性について理解していると考えられる。III.「授業の進め方」は「話し方や説明の仕方」が他の項目より低かった。伝え方を改善する必要がある。</p>	<p>授業意欲は高く，授業の内容の目的と習得の有益性は伝わっていると思われる。そこで授業以外の時間でも学習し授業内容を定着できるように，ピアノ練習などの予習復習の必要性を伝え，具体的な学習内容を提示し，学生に働きかけることが必要だと考える。授業の進め方では授業内容が，初心者から音楽経験者が一緒に学ぶ方法だが，それぞれが理解しやすいように，学生の様子を捉え，ポイントを明確に説明したい。</p>
基礎国語 村田あきの	<p>適切な日本語運用能力と良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を習得する。</p>	<p>アンケート結果からは，授業態度，授業内容，授業の進め方の項目について目立った低評価は見られなかった。ただ予習・復習の週平均時間は低い値を示しているため，改善が必要かと思われる。</p>	<p>学生の取り組みから，正確な日本語のインプットが不足していると考えられる。インプットが足りないことが日本語の推測能力や行間を読む力に影響しているといえる。そのため予習・復習では「読み」を鍛える課題を，保育と関連付けたうえで課すことを検討したい。</p>

科目名 担当教員名	到達目標	授業振り返りアンケート 結果分析	具体的な改善策
子ども家庭支援の 心理学  工藤 絵里	子育て家庭をめぐる現代社会的状況と課題について理解する。また、支援のあり方について、様々な実践などを基に、理解できるようになる。	アンケートの結果から、項目「授業への意欲」は平均値4.75であり、授業意欲はあるが、「予習・復習の週平均時間」は最低値を示しており、予習・復習に結び付いていないことがわかった。	予習・復習時間が少ないという課題については、教科書の新たな選定や資料内容の見直し、定期的にレポート課題を出すことも検討する必要がある。今後も学習方法に関する分かりやすい指導に努めていく。
日本国憲法  伊藤 泰	本講義では、日本国憲法の内容について知り、特に人権についての知識を深めることを目的として、具体的な事例を交えつつ授業を行う。	質問項目9「教員の話し方や説明の仕方」についての数値が4.55、質問項目11「意見や質問の出しやすさへの配慮」についての数値が4.33、さらに質問項目13「総合的な満足度」についての数値が4.40となるなど、本講義において掲げた目標は概ね達成されたものと考えられる。	本年度に掲げた目標がさらなる達成を見るよう、次年度も引き続き努力する方針である。
児童文化 I  土川 千枝	子どもの心を豊かにはぐくむために、保育の内容における児童文化財の位置づけや基礎的な知識・技能・感性を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演習やグループワーク等アクティブラーニング形式を心がけたことで、学生は互いにコミュニケーションを取り意欲を高めながら課題に取り組む姿が見られた。</li> <li>・ 予習・復習時間の課題の量等は不足気味であり反省する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生が主体的に学習に取り組み、より意欲を高めるためにも信頼関係を築くとともに提出された課題の内容から理解度を把握し、授業を展開するよう努める。</li> <li>・ より理解度の向上を目指し、授業前後の自習課題の内容量を工夫する。</li> </ul>
子どもの食と栄養  村田まり子	保育者としての子どもの食生活に関わる基本的知識を理解する。また、自分自身の食生活を振りかえる機会とする。	授業評価アンケートの結果から、I受講態度3.予習・復習の週平均時間が低いことがわかった。また、授業の進め方について、教材や機器の使用などの工夫以外は、評価が低かった。 その他の項目については、おおむね良好だった。	全体的には、今年度を踏襲していく。 CHECKの項において課題とされた、予習・復習の機会を設定する。また、授業の進め方において、学生の授業態度及び状況を常に把握しながら、できる限り対応していく。